

仙台市中学校長会
会長 熊谷 祐彦

蔵王の峰々の残雪が白く輝き、街は爛漫の花に彩られ、新しい季節が巡ってまいりました。

このたび、仙台市教育局教育人事部の佐藤参事様をはじめ常日頃お世話になっている関係団体の皆様や歴代の校長会長様各位のご臨席を賜り、第10回仙台市中学校長会総会を開催できますことは、私ども一同大きな喜びといたすところでございます。

昨年度末をもって、ご勇退やご退会された校長先生方は26名に登り、これまでの先輩諸氏のお姿こそ、私どもの鏡であると共に、強い心の支えでありました。改めて先輩諸氏の存在の大きさを痛感しているところであります。しかし、新年度を迎え、新会員として19名、転入・再入会員として5名の校長先生をお迎え致しました。新たに会員になられた皆様、転入再入会の皆様おめでとうでございます。心からお喜びいたしますと共に、皆様を歓迎いたします。ぜひ、仙台市の中学校教育の充実発展に向け、お力添えをよろしくお願いいたします。

さて、現在、教育改革は加速度的で、しかも大きく変わろうとしております。平成28年1月には仙台市の『教育の振興に関する施策の大綱』が策定され、その『大綱』を踏まえて、『第2期仙台市教育振興基本計画』の策定作業も本年度から開始されます。また、平成29年度からは、政令都市への事務移譲が始まります。いじめ防止対策、道徳の教科化、小学校英語の教科化を含め、アクティブ・ラーニング等の具体的なあり方を盛り込んだ新学習要領改訂作業が進行中です。一方では、学校段階間の連携・一貫教育のあり方などなど教育制度の根幹に関わる改善も着実に前進しており、学校教育は大きな局面を迎えております。

また、東日本大震災から5カ年が経過し、街は震災前の様子を取り戻し、以前と変わらぬ生活が戻ってまいりました。各学校における保護者や地域と連携した防災教育の充実や、生徒による故郷復興プロジェクトも定着して参りました。しかし、生徒指導上では、いじめ・不登校や指導困難学級等の問題は、以前気が抜けない状態です。

あの21年前に発生した阪神淡路大震災の報告によりますと、生徒指導の問題が、発災後は発災以前に比較して小中学校とも増加したとのことです。家庭教育や地域コミュニティの機能が十分に果たせなくなり、震災当時未就学児であった子供たちが、生活習慣や社会のルールを十分身に付けられないまま、小学校や中学校に進学し、生徒指導上の問題が複雑化したとも聞いております。そのような中で、神戸市は『地域に学び、共に生きる心と感謝の気持ちを育む』を旗印に、様々な事業を展開され、教育復興を見事に成し遂げられました。

全日本中学校長会においても、東日大震災支援委員会が今年も設置され、岩手・宮城・福島、被災3県への支援活動が継続されます。そのような状況において、私たち仙台市中学校長会は、全国からのご支援に感謝し、お応えする意味から、歴史に学び教訓を生かし、『創造ある復興』に向け、油断なく全力で取り組んで行くことを確認し合いたいと思います。

このような現状を踏まえ、所感を2点述べさせていただきます。

一つ目は、教育改革の局面に当たって、校長は、リーダーシップとビジョンと戦略を持ったマネジメント力を持たなければならないこと。

二つ目は、全日中研究協議会・宮城大会の開催や大都市中学校長会連絡協議会仙台大会の準備に向けてであります。

まず、1点目は、我々は学校現場の最高責任者として、教職員の理解と納得を得てその実現をめざすリーダーシップと、ビジョンと戦略に基づいて実行計画を作成し、人材を適所に配置し、発生する問題をその都度解決するマネジメント力を持たねばなりません。

現在、大量退職、大量採用時代を迎え、ますます一人一人の教師の果たす役割は大きく、教師が意欲と使命感を持ち、他の職員との相互理解と協力の下に、生き生きとした教育活動を展開することが求められております。加えて、生徒が基礎的・基本的な知識・理解の獲得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の能力や多様な人間

関係が結べる力を得られるように、教師自身が実践的指導力を備えることは不可欠であります。

校長は、一人一人の教師がどれだけの力量を持ち、どのような実践を行っているのか把握する必要があります。校長は日々、個々の教師とコミュニケーションをとり、授業実践等の情報を得て、教師が努力しようとする意欲を持つように仕掛けて行かなければなりません。教師の資質や能力を少しずつでもレベルアップさせることが底上げとなり、それが職場全体での成果へと結びついて行くと思います。我々校長は、リーダーシップとマネジメント力を発揮し、質の高い教師の集団づくりに努めて行かなければなりません。

そして2点目は、本年度はいよいよ、全日中研究協議会宮城大会がこの仙台市を会場に開催されます。そして大都市中学校長会連絡協議会の仙台開催が来年度となり、その準備も確実に進めなければなりません。東日本大震災では想定をはるかに超える事態に直面しましたが、当時の先輩校長各位は、強いリーダーシップと強い使命感のもとに、不眠不休のご努力をなされ、様々な困難を乗り越えてこられました。平成26年度の阿部会長は『共に負けじ魂を燃え上がらせよう』とおっしゃり『人は石垣、人は城。仙台市中学校長会も人を以て城となす』と言い続けて来られました。また、平成27年度の八巻会長は、『仙台で育った子供たちに、故郷の未来を託せるよう65校がしっかりと手を携えていかなければならない。仙台市中学校長会の存在意義がそこにある。』と話され、我々の団結を鼓舞されてこられました。そして、不撓不屈の精神で、新たな防災教育や創造ある復興を目指した数々の取り組みを実践されました。これまで退職校長会や各関係団体をはじめ、全国の多くの方からいただいたご恩に報いるためにも、我々が復興に向けて実践してきたことを、胸を張って発信する絶好の機会が到来したと考えます。われわれのスローガンである『ともに、悩みを分かち合い』『ともに、知恵を出し合い、支え合い』『前へ、仙台市中学校長会』を基軸に据え、より団結を強くし進んで参りたいと存じます。

結びに、本年は、宮城県中学校長会と仙台市中学校長会が分離し、仙台市中学校長会としてスタートしてから10年を迎える節目の年でもあります。これまでの歴代会長や諸先輩方が築かれ、継承されてきたことを受け継ぎ、新たな気持ちで、皆様と共に、様々な教育課題に取り組んで参ることを誓い合って、総会の挨拶といたします。